

4. あとがき

台風 26 号により伊豆大島では死者 36 名・行方不明者 3 名の人的被害を伴う大規模土砂災害が発生した。被害は特に大量の降雨を観測した元町・神達地区に集中しており、一つの地区を見舞った土砂災害としては、発生時点においては最大規模のものであったと言って過言でない。

これに対して、国土交通省では災害発生直後から現地に TEC-FORCE を派遣し、災害対策支援活動を実施するとともに、国土技術政策総合研究所ならびに土木研究所が中心となって災害調査にあたった。

本報告は、もっとも被害の大きかった大金沢を中心に実施したこれら土砂災害調査等の成果をとりまとめたものであり、非常に特徴的とも言える「火山地域にける表層崩壊の実態」、「尾根部を乗り越えた土石流の流下形態」、「大量の流木による被害の拡大」、さらには「砂防施設の効果」などについて考察を行ったところである。

さらに国土交通省では、この大規模土砂災害を受けて「土砂災害対策の強化に向けた検討会」（平成 25～26 年度、池谷浩委員長）を設け、上述の事項を教訓とした今後の土砂災害対策の強化策について提言を得たところである。

本災害により得られた知見を活かし、また、新たな課題を解決してゆくことで土砂災害対策技術のさらなる進展が図られるよう、今後とも調査研究や技術開発に努めていくことが求められている。

最後に、この土砂災害により被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、調査等にご協力をいただいた大島町、東京都、その他防災関係機関、研究機関の皆様に御礼申し上げる次第です。